（四）各地に残る愛宕常夜灯

愛宕信仰は、右京区の愛宕山山頂にある愛宕神社から発祥した信仰で、全国にも広まっています。愛宕神社の神様は、「火伏せ」に霊験のある神として広く信仰されるようになり、古くから修験道の道場であって、愛宕山に集まった修験者によって江戸時代中頃から愛宕信仰が日本全国に広められたといいます。

⑲ 愛宕常夜灯

渋谷街道（北花山寺内町）

京都では「愛宕さん」は有名で、山科でも今なお愛宕神社からもらってきた「阿多古祀符火迺要慎」と書かれた「火の用心」のおふだが貼ってある家も多くあります。この北花山の常夜灯には表に「愛宕常夜燈」と書かれていて、側面には「昭和十三年六月建之」、裏面には「北花山下之町燈明講中」と書かれています。「下之町」という町名は、昔の呼び名で現在の北花山東部地域を指しています。

旧三条通（御陵鳥ノ向町）

旧三条街道沿いにある福永日進堂前に建立されている愛宕常夜灯は、一八五五年二月に建立されたものです。

愛宕山には「千日詣」といって、七月三一日の夜間に登れば千回登ったと同じ御利益があるという話もあります。

奈良街道（大塚西浦町）

奈良街道沿いの大塚地域に「愛宕山」と書かれた愛宕常夜灯が建っています。各地の常夜灯と共に山科での愛宕信仰を物語る貴重なもので、大塚地域にも講があったことを示しています。

醍醐街道（東野百拍子町）

醍醐街道沿いの東野地域に「愛宕常夜灯」（「灯」の部分は地面に埋まっている）と書かれた愛宕常夜灯が建っています。

勧修寺地域（勧修寺御所ノ内町）

勧修寺から大岩街道を越えて南に行った所にも「愛宕神社　常夜灯」と書かれた愛宕常夜灯が建っています。現在日本全国で「愛宕」を社名につける神社は約千社近くあります。

小野地域（小野葛籠尻町）

旧奈良街道沿いに、真新しい愛宕常夜灯が設置されています。「平成八年十二月吉日建立　北部講中一同」とあり、小野北部地域では、最近になって「愛宕講」が復興されて、新しい常夜灯の設置となりました。復興されたことは貴重な意味を持っていると言えるでしょう。

山科に関する資料

（一）時代別に見る山科の特色

山科には奥深い歴史が秘められています。今まであまり知られてなかった「山科」を中心に紹介したいと思います。

一　先史時代

氷河期の山科のようすが次第にわかってきました。（四二頁参照）
中臣遺跡の発掘によって、昔の山科が浮びあがってきました。（四三頁参照）
山科には中臣遺跡以外にも多くの遺跡があります。（五五頁参照）

二　古代

飛鳥・奈良期の山科（五三頁参照）

天智天皇や中臣（藤原）鎌足が山科の地に登場します。このことは、その後の山科に大きな影響を及ぼしています。
たたら遺跡が三箇所あり、山科で製鉄が行われていたことがわかってきました。

平安期の山科（五三頁参照）

天皇や皇族の御願寺が山科には多くあります。

三　中世

鎌倉・南北朝・室町・戦国期の山科（五二頁参照）

応仁文明の乱による社寺や民家の焼失は山科でも多く見られました。
そのような中で蓮如は「山科本願寺を中心とした寺内町」をこの山科に建設しました。（三八頁参照）
また、山科七郷が文献上に初めて登場し、明治初年まで五百年あまり続いています。

四　近世

安土桃山・江戸期の山科（五一頁参照）

応仁文明の乱で焼かれた山科の社寺民家が復興しています。
東海道と奈良街道には「一里塚」が置かれ、そのうち、大宅の一里塚は現在京都市に残る唯一の一里塚として史跡となっています。このほか、木食正禅による日ノ岡峠の改修工事など、地域の人々による基盤整備がみられるのが特徴です。

五　近代

明治期の山科（五〇頁参照）

寺子屋の時代から小学校の時代に変わりました。蒸気鉄道と山科疏水の開通によって山科北部を中心に産業の勃興がみられましたが、まだ自然の景観はよく保たれていました。

大正期の山科（五〇頁参照）

京津電車と東海道新線（現ＪＲ）の開通とともに、鐘紡山科工場が進出しその影響は多くの産業に及んでいます。

昭和前期の山科（四九頁参照）

京都市への編入、京津国道（現三条通）の開通等により山科北部の開発が進み、山科に映画館もできましたが、その後、戦時体制下に入りました。

六　現代

昭和後期（戦後）の山科（四八～四九頁参照）

国鉄電化、新幹線開通、名神高速道路、五条通（現国道一号）、外環状線等道路網の整備拡充、鐘紡山科工場跡地の再開発は、必然的に住宅及び人口の急増を伴い、小学校の増設、学区の再編成へと山科が大きく変わりました。山科地域が東山区から分区し、椥辻に山科区役所が置かれました。
一方、重要な遺跡が発掘されて、今まで知らなかった山科の姿がわかるようになりました。

平成の山科（四八頁参照）

山科駅前再開発と地下鉄東西線開通により山科は大きく変わりつつあります。